

令和元年度佐渡ジオパーク推進協議会臨時総会議事録

1 日時 令和2年3月21日(土) 10:00～11:00

2 場所 両津地区公民館 会議室

3 出席会員

顧問	佐藤久雄(県議会議員)
同	渡邊剛忠(有識者)
会長	三浦基裕(市長)
副会長	渡邊尚人(教育長)
同	樺澤 尚(新潟県佐渡地域振興局長)
会員	崎尾 均(新潟大学佐渡自然共生科学センター長)
同(代理)	木村富美雄(佐渡連合商工会)
同	永井 充(JA佐渡経営管理委員会会長)
同	本間 皓(JA羽茂代表理事組合長)
同	尾崎弘明(佐渡汽船㈱代表取締役社長)
同	中川清太郎(有識者)
同	佐々木史郎(佐渡観光旅館連盟会長)
同	佐藤浩司(佐渡青年会議所理事長)
同	池 善世(佐渡ジオパークガイド協会会長)
同(代理)	中川哲昌(佐渡を世界遺産にする会)
同	大石惣一郎(佐渡棚田協議会会長)
同	濱崎賢一(佐渡市教育委員会佐渡学センター長)

4 欠席委員

顧問	中川隆一(県議会議員)
同	小林巖雄(有識者)
アドバイザー	澤栗浩明(環境省佐渡自然保護官事務所首席自然保護官)
会員	前野 貢(新潟大学理学部長)
同	安東宏徳(新潟大学佐渡自然共生科学センター海洋領域長)
同	加藤 透(佐渡観光交流機構常務理事)
同	村山優樹(新潟交通佐渡㈱代表取締役専務)
同	松岡 篤(有識者)
同	藤林紀枝(有識者)
同	市橋弘之(佐渡トレーニング協議会事務局長)
同	中道康夫(佐渡山岳会長)
同	寺尾和弥(佐渡漁業協同組合代表理事組合長)
同	中川良明(佐渡森林組合代表理事組合長)
同	猪股雄司(佐渡市企画課長)
同	坂田和三(佐渡市世界遺産推進課長)

5 事務局

粕谷直毅
齋藤辰弥

北見太志
北見明亜
市橋弥生
貞包健良

6 審議結果

議案第 1 号：第 38 回日本ジオパーク委員会審査結果報告書に対するアクションプランの提出について

結 果：承認

議案第 2 号：令和 2 年度 事業計画（案）について

結 果：承認

議案第 3 号：令和 2 年度 予算（案）について

結 果：承認

（議事内容要約・質疑応答）

- 1 会長あいさつ
- 2 総会成立の報告

会員数 27 名、出席者数 15 名、委任状提出 12 名、計 27 名
過半数に達しているので、協議会設置要綱第 12 条第 4 項の規定により総会成立

3 議題

- (1) 【議案第 1 号】第 38 回日本ジオパーク委員会審査結果報告書に対するアクションプランの提出について（資料No.1）

○アクションプランを作成する理由

日本ジオパーク委員会審査結果報告書の中で、課題・改善すべき点について今後どのように改善するか、人員や予算の裏付けとスケジュールを明記したアクションプランの形で、今年度中の報告を求められている。

○アクションプランの様式（体裁）について

特に指定された様式がないため、平成 31 年 4 月に作成した、「第 2 次佐渡ジオパーク基本計画」の巻末に掲載しているアクションプラン（令和 5 年度までの年次計画）を改正する形で提出したい。

○資料No.1 の文書部分では、アクションプランの趣旨、概要等について触れ、別に作成するアクションプランを提出する旨を記載。一方、ジオパーク推進アクションプラン（2020～2023）では、再認定審査結果報告書で示された 7 つの課題等に対する取組みの概要と活動指標、年次計画について記載。

また、上記の課題以外に、平成 29 年度再認定審査での指摘課題に対する取組みについても継続分として、①ストーリーの再構築（総合解説資料の作成）、②保護保全活動の継続実施（サイトのパトロール、地域説明会の開催など）を追加で記載。

- (2) 【議案第 2 号】令和 2 年度事業計画（案）及び【議案第 3 号】令和 2 年度予算（案）について（資料No.2、資料No.3）

事業計画（案）については、上記アクションプランに掲載した取組のうち、令和 2 年度に実施する項目について概略説明。その後、ジオパークの普及啓発とし

て継続的に実施するその他の取組事項を説明。

予算（案）については、課題であった視認性向上策の一環で取り組んだ佐渡汽船ターミナルや船内への看板設置、拠点施設の再整備の一環であるデジタルサイネージ（大型ディスプレイ）の整備が完了したため大幅な減額となっている旨を説明。

また、今年度は新たに拠点施設や学習で活用するため、「佐渡の成り立ち等」を盛り込んだオリジナル動画の作成や専門的すぎる看板などの改善を図るため、既存看板の見直し費用を盛り込んだ旨を説明。

【意見・質疑応答】

○顧問：ジオマップ英語版の作成について、中国語版及び韓国語版の作成の見通しを教えてください。

事務局：以前は英語版、中国語版及び韓国語版も揃えてあったが、リニューアルした際、費用面から日本語版のみの作成となっているため、今年度は英語版を作成するもの。その他の言語版についても順次対応したいと考えている。

○会員：新潟大学では自然史博物館構想というものを立てている。市民と連携し、市民が参加できるような科学というものを地域貢献の一環として、地域との連携を大々的にやっていく。その中で大学と市民との間を通じて何が有効的であるかと考えた時に、博物館が最も有効であろう。大きなプラットホームになり、市民サイエンスが発展していけるのではないか。そういう意味でも、新潟大学佐渡自然共生科学センターとしてもこのアクションプランについて、協力又は実質的にやっていきたい。新しい博物館構想の中に、この構想も一緒に入れて検討してもらいたい。

事務局：市博物館構想は来年度の夏頃を目標に、博物館協議会の中で、今の自然史博物館構想のところも含めながら検討していきたい。

○顧問：3事業（ジオパーク推進、世界遺産推進及び世界農業遺産）の実質的な効果の創出について、連携による効果について指摘されているが、定期的な情報交換、イベント企画会議の開催だけで活性化が図れるか。

事務局：定期的な情報交換は、それぞれに企画するイベントなどの情報を共有するとともに、3事業で一緒にできるものはないかというものについては、イベント企画会議の中で検討したいと考えている。市内の様々なイベントに3事業で何か取組めるものはないか、そういったものの検討を進める予定で考えている。

その他

○顧問：来島者に対して、楽しんでもらうことが大事だと思う。そのためには取り組んでいる私たちがまず楽しむことが大事である。そういう状況を発信できると来島者が増えることにも繋がる。

○会員：佐渡市は市のシンボルとしての花、木、鳥、魚があるが、ジオパークとしてみた場合、赤玉石が馴染んでおり分かりやすい鉱物だと思う。ジオパークのシンボルとして考えていただきいただけるとありがたい。

事務局：アクションプランの中に鉱物の調査、資源の枯渇にも関係するので、今後の参考にさせていただく。

○顧問：新聞にトビシマカンゾウの記事が出ていたが簡単に紹介してもらいたい。

事務局：山形大学がトビシマカンゾウの DNA に関する研究を行い、ニッコウキスゲと

トビシマカンゾウが見た目はそっくりだが DNA 的には異なるという研究結果がでた。その結果の副産物として、佐渡に生えているトビシマカンゾウが DNA 的には大きく二分され、そのうちの 1 つが現在の飛島に自生しているものという結果も出た。佐渡にあるトビシマカンゾウが飛島にあるカンゾウの起源かもしれないことを示唆している。今後の保護の方向に関して参考になる研究結果である。

4 その他
特になし

5 樺澤副会長あいさつ

終了